

県立古河第一高等学校（定時制） 令和 7 年度 自己評価表

目指す 学校像	目指す学校像 校訓「高潔至誠 質実剛健 協同自治」の精神を基盤に、確かな学力と豊かな心・健やかな体を育て、生涯にわたって学び続けながら、社会の変化に対応して創造的にキャリアを形成し、地域の中核となって活躍できる人財を育成する。 (1)「主体的・対話的で深い学び」の実践をとおして、自ら課題を見つけ、自ら解決する力を育む学校 (2)望ましい職業観・勤労観を育成し、生徒一人ひとりの夢(希望進路)を実現する学校 (3)基本的な生活習慣を確立させ、道徳教育・特別活動等を通して、規範意識や豊かな心を養う学校 (4)特別活動や部活動を通して健やかな心身を育成し、協働を通して人間力の向上を目指す学校 (5)情報発信の充実により「開かれた学校」を目指すとともに、家庭や地域との連携を通して、地域社会と協働できる学校 (6)働き方改革を推進する学校			
	昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
・基礎基本の学び直しの指導に重点を置き、学ぶ楽しさを実感させる。 ・令和6年度卒業生は9名、内訳は就職6名、未定者3名であった。生徒全員の進路希望を実現するため、情報収集や適切な進路指導に努めたい。 ・単位修得を意識させ、生徒理解に基づいた個に応じた指導を引き続き行う。 ・生徒の基本的な生活習慣の確立を図り、遅刻者を減らす。また、服装・頭髮の乱れに関して、自己を振り返り社会人としての意識改革を図る。 ・規律ある落ち着いた学校生活を送っている生徒が多いが、さらに、集団の一員としての自覚、規範意識の高揚を図るための指導を展開する。 ・キャリアパスポートの運用方法について校内の共通理解を図り、積極的な利活用をする。 ・開かれた学校・課程を目指し、ホームページや各種通信、学校説明会等の充実を通して、保護者や地域へ適切な情報発信を行うとともに、中学校訪問や学校評議員会、PTA活動等を通して情報収集に努め、さらに開かれた学校づくりを進める。	学力の向上と学業の継続 授業改善の推進	①雇用主や家庭との連絡を密にし、生徒の欠席・遅刻を未然に防止して学習の継続を図るとともに、学業を放棄させないように努力する。 ②基礎・基本を丁寧に指導することで、毎時間の授業の理解度を高める。また、ICTの利用等を通して生徒の興味関心を高め、生徒の学びを引き出せるよう、授業の改善に努める。 ③生徒が主体的に学習に取り組む態度を養えるように、教科横断的な学びを意識した教材研究や研修を活用して、それぞれの教師が授業力の向上に努める。 ④ICT機器(タブレット、電子黒板等)の利用方法について習熟し、授業での効果的な利活用を目指すとともに、自分の考えを他者に正確に伝えられるような力を養えるように授業の改善を積み重ね、生徒のプレゼンテーション能力の向上を目指す。 ⑤授業満足度(KPI):「生徒による授業評価」の最終評価において授業満足度の平均値が3.2以上となることを目指す。	B	
	生徒指導の徹底	⑥家庭や職場と情報を共有して生徒の実態を把握し、生徒を取り巻く環境の理解を深めた上で、教師と生徒のよりよい人間関係に基づいた生徒指導を行う。 ⑦学校生活を通じて、教師と生徒との信頼関係を築き、何事でも相談できる雰囲気づくりを進める。 ⑧潜在的ないじめや非行の早期発見に努め、未然防止と指導の徹底を図る。 ⑨安全教育に努め、事故の未然防止を図る。 ⑩粘り強く指導して、怠学からくる遅刻・欠課・早退などを減少させ、生活習慣の確立を図る。	B	
	健康管理と体力増進	⑪学校給食におけるマナーを身に付けさせる。 ⑫学校給食を通して食生活の大切さを認識させ、健康な身体づくりを推進する。 ⑬食育や健康教育に取り組み、生涯にわたって自ら健康を維持できる実践力を育む。 ⑭部活動の奨励により、心身共に健康な生徒を育成する。	B	
	開かれた学校づくりの推進	⑮定通教育振興会との連携や支援を受けて、教育の日の行事など教育活動を積極的に公開する。 ⑯外部講師による授業等の機会を積極的に設け、地域社会との連携を図る。	A	
	「働き方改革」の推進	⑰勤務時間を遵守し、最終退勤時間を22時とする。 ⑱校内サーバーや教育情報ネットワークの利活用により、情報共有の効率化を図る。 ⑲衛生委員会を中心に、職員間で働き方についての工夫を提案し、実践につなげる。 ⑳行事等の精選を図る。	A	

三つの方針		具 体 的 目 標		評 価		次年度(学期)への主な課題
「三つの方針」(スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」(グラデュエーション・ポリシー)	基礎的な学力と豊かな心、健やかな体を育て、主体性や社会性を身に付け、社会の一員として貢献できる人財の育成を目指す。		B	B	社会に出て、生かせるような基本的生活習慣の確立。
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」(カリキュラム・ポリシー)	望ましい職業観・勤労観を育成し、生徒一人一人の多様な進路希望を実現する教育課程を実施する。		B		アルバイト等で一定程度勤労観を身につけつつあるが、半分程度の生徒は、アルバイト等の経験がない。
	「入学者の受入れに関する方針」(アドミッション・ポリシー)	中学校で学習した内容を基に、高等学校での学習内容を深め、協働しながら卒業に向かって努力できる生徒を受け入れる。		A		事前に個別の学校見学や、学校公開日の授業見学等をした上で、受験をしている。
評価項目		具 体 的 方 策		評 価		次年度(学期)への主な課題
教科指導		授業を第一とする意識向上を図る。	職員間の情報共有を密にして連携を図り、授業に真剣に取り組む意識を高める。 ①	A	B	・情報共有を密にして、これまで以上に生徒の特性を考慮した授業を展開する。
		生徒の学力向上に努める。	授業内容の精選や教材の工夫をし、個に応じた指導を展開する。 ②	A		
			生徒の実態に応じた指導法を研修し、授業に活かす。 ③④	B		
教科	国語	基礎学力の向上を図る。	基本的な漢字の読み書きを徹底して学び、定着を図る。 ②	B	B	・タブレットを効果的に活用し、生徒の学習活動の機会を増やしたい。
			小テストを通して、慣用句・四字熟語などの語彙の定着を図る。 ②	B		
			様々な文章にふれる機会を増やし、文章の構成・主題を理解させる。 ③	B		
		わかりやすい授業展開に努める。	タブレット、電子黒板等の利用等を通して、生徒の興味関心を引き出す工夫をする。 ④	B		
		進路実現を見通した指導を充実させる。	一般常識として必要な言葉(敬語等)についての知識理解を深め、言葉に対する感性を磨く。 ②③	B		
			自己表現としての「書く」「話す」を適切にできるような授業展開に努める。 ②③	B		
	地歴	基礎学力の定着と向上を図る。	教科書・地図帳を補完する自作教材の研究に務め、授業に反映させる。 ②④	B	B	・基礎基本となる学習の定着をはかる。 ・授業に取り組む集中力の向上を工夫する。 ・生徒相互に調べ学習した内容等の共有や、疑問や質問の応答を盛り込んだ指導法の実践。
		地理や歴史への興味・関心を高め、学習に取り組む意欲の向上を図る。	電子黒板、タブレット端末、パネル等の視聴覚教材の効果的な活用を通じた学習意欲の向上に努める。 ②⑤	B		
	公民		※今年度開講なし(2学年設定の公共は次年度開講)。			
	数 学	基礎学力の定着と向上を図る。	独自のプリントを作成し、必要に応じてICT機器を活用しながら、基礎・基本の徹底に努め、きめ細かい指導を行う。 ②④	B	B	・生徒の能力に対応できるように授業プリントを作成し工夫をしていく。 ・ICT機器などを活用し、効率的かつわかりやすい授業の工夫をしていく。
		わかる喜びを実感する授業への改善に努める。	小・中学校で不十分であった部分をしっかり補填しつつ、生徒の実態に合わせて内容を精選した授業を展開する。必要に応じて補習授業を実施する。 ②⑤	B		
理 科	基礎学力の向上を図る。	教科書以外の教材の積極的な利用を進める。 ④	B	B	・実験・観察を通して身近な現象に興味をもたせるような授業を展開する。	
	理科への興味をもたせる。	身の周りの具体的な例をあげ、学問と実際の例とをつなげる。 ②③	A			

教科	保 体	生涯にわたって運動を豊かに実践することができるようにするため、基本的な技能を身につけさせる。	バランスよく種目を配分した年間計画を作成し、基本的な技能を身に付ける。	②③	A	B	・各生徒が自ら進んで運動に取り組む姿勢を身につけられるように助言していきたい。 ・日常生活と健康の関わりについて理解を深めさせたい。
			複数の種目を選択・履修させることで、進んでスポーツに取り組む環境をつくる。	③⑤	A		
			ウォーミングアップを個人ないしグループで考え、主体的な取り組みをさせる。	④	B		
		健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図る。	生徒の実態に合わせてスポーツテストに取り組み、結果が前年を上回ることを目指す。	③⑤	B		
			食生活の見直しを行い、健康の保持増進に効果的な食事の在り方を考えさせる。	⑫⑬	B		
	芸術	基本的な学習習慣を定着させる。	毎時間の授業を大切にすることを身に付けさせ、学習の内容の定着を図る。	②	A	A	・反復練習が苦手な生徒が多いため、緩急を工夫した授業展開をする。 ・感性をより養うため、リラックスした雰囲気づくりをする。
		情操教育を充実させる。	生徒個々の感性や情操を育てる学習環境を整備し、作品づくりを通して感性を養う。	③⑦	A		
		鑑賞教育を充実させる。	他者の作品を鑑賞したり、評価することを通して、鑑賞する能力の向上を図る。	③⑤	B		
	外国語	基礎・基本的学力の定着を図る。	学び直しの時間を設け、ゆとりある授業展開をする。	②③	B	B	・様々なレベルの生徒に対応できるように教材（プリントなど）への工夫をしていく。 ・ICT機器なども積極的に活用し、効率的かつわかりやすく授業を進める工夫をしていく。
			プリントやICT機器等を活用して、繰り返し指導を行う。	②④	A		
		コミュニケーション能力を育成する。	英語の音声面の指導を積極的に行う。	②	B		
			教科書の例文を利用して、簡単な英作文ができるようにする。	②	B		
		個に応じた指導をする。	学力差に応じ、個々に対応した指導を行う。	②	A		
	家庭	家庭や地域の生活課題について考えさせる。	家庭・家族の意義や社会との関わりについて理解し、男女平等や協力について認識させる。	②	A	B	・生徒の能力に対応できるように教材の選定を含めて工夫をしていく。 ・効率的かつわかりやすい授業の工夫をしていく。
			子どもの発達と保育、高齢者の生活と福祉について理解させる。	②③	A		
		生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を養う。	消費者の権利と責任などについて理解させ、消費生活の課題について認識させる。	②③	B		
			生活設計の立案を通して、生涯を見通した自己の生活について主体的に考えさせる。	⑬	B		
	情報	基礎知識の向上を図る。	ICT機器の活用を通して、他の教科でもIT活用ができるような能力の育成を目指す。	②	B	B	・生徒の実態に柔軟に対応し、情報技術を活用した問題の発見・解決に資するよう丁寧な個別指導と全体的指導の両方を図る。 ・ソーシャルメディアの活用と注意点について正しく理解できるように注意深く指導していく。
			実習を通して生徒の知識や能力を把握し、個別指導や補習等を実施し能力の向上を図る。	②	B		
		情報を活用する態度を育てる。	正しい情報の発信や収集方法を知り、情報リテラシーを身に付ける。	②	B		
	商業	基礎学力の向上を図る。	簿記に対して興味・関心をもたせ、基本的な仕組みについて理解される。	②	B	B	・生徒の実態に柔軟に対応し、簿記については実社会に即して体系的に理解し、関連する技術を身につけさせる。ビジネス実務については、経済社会で生活していく上で必要な勤労観・職業観を身に付けることを念頭に更なる工夫をする。
			ビジネスの基礎や実務に関する基本的な知識を身に付ける。	②	B		
		全商簿記検定3級の実力を身に付けさせる。	練習問題や過去問題の反復練習を行い、検定試験合格の実力をつける。	②	B		

教 務	授業実施時数の確保に努める。	年間指導計画を見直し行事等を精選しながら、授業の改善及び質の向上に努める。 ②⑤⑯	B	B	・古河一高の定時制というスタイルを確立し、外部への発信に努める。 ・多様な生徒に対応していく学校行事を考察していく。
	授業公開相互参観等の校内研修の機会充実に努める。	授業の開始と終了時間を厳守する。 ⑥⑩	A		
	教育活動の公表と開かれた定時制の実践に努める。	相互授業参観を実施し、授業力の向上を図る。 ③④⑤	B		
		学校ホームページ、授業参観・学校説明会等の機会を活用し、教育活動の公開に努める。 ⑮	B		
生徒指導	遅刻者の減少に努める。	保護者との情報交換を密にし、基本的生活習慣の確立をめざす。 ①⑥	A	B	・学校行事も含めて欠席・遅刻・早退を減らすとともに、学校生活全般を通して、規則を遵守する意味や意義の理解を図る。
	非行の早期発見に努め、未然防止と指導の徹底を図る。	薬物乱用防止講演会を通して、薬物使用による人体への影響を理解させ、その予防を図る。 ⑨	A		
		学校生活全般を通して、規則を遵守する意味や意義の理解を図る。 ⑩	B		
		儀式的行事だけではなく、講演会や集団行動の際には正装を徹底する。 ⑩	B		
	いじめに関して、学校いじめ防止法に基づき、いじめ防止に努める。	学校いじめ防止基本方針に示す評価規準に照らし、いじめに関するアンケート調査を行い、早期発見、実態把握及びいじめに対する措置を適切に行う。 ⑧	B		
	安全教育を進め、事故の未然防止に努める。	交通安全教育を実施すると同時に、登下校指導を定期的に行う。 ⑨	B		
保 健	健康の保持増進のための一連の検査を円滑に実施する。	体位測定、内科検診、歯科検診、胸部検査、心臓検査、尿検査等の法定諸検査を、職員及び保健関係機関、学校医の協力を得て計画的に実施する。 ⑬	A	B	・安全点検の結果、備品の劣化や耐震の面で気になる点があがった。環境の整備に向けて取り組んでいきたい。
	心の健康教育、性教育など生徒の健康教育を推進す	保健所、県関係諸機関、医療機関、スクールカウンセラー等と連携を図り、生徒の心身の健康の保持増進を図る。 ⑦	A		
	学校環境衛生の安全確保及び学習活動に適切な環境の維持向上を図る。	定期の環境検査及び安全点検を実施し、校内の教育活動に適した環境の整備及び保持を図る。 ⑨	B		
		関係機関や自治体と連携し避難訓練を行い、住んでいる地域の防災意識をを高める。 ⑨	B		
	給食を通して望ましい食習慣を身につけさせる。	食事前の手洗いを励行し、食事のマナーを身につけさせるとともに、自らの健康を維持する食習慣を養成する。 ⑪⑫⑬	B		
進路指導	進路希望に応じた面談の充実を図る。	生徒面談、家庭との連携を軸に進路実現に向けた信頼関係の向上を図る。 ⑥⑦	B	B	・進路希望や配慮に応じ、きめ細かい指導に努めたい。
		進路希望に応じ、適切な助言と支援の実践に努める。 ①⑥	B		
	就職希望者の進路実現に向けた企業開拓に努める。	進学・就職実績や、本校定時制に理解のある学校・企業を中心に積極的な進路開拓を行い、卒業予定者全員の進路実現に向けた進路指導に努める。 ①⑥⑦	B		
特別活動	生徒の自主性と協調性を養う。	各種学校行事を生徒主体で企画・運営させ、円滑な実施ができるように指導・助言する。 ③⑦	A	B	・生徒一人一人が各行事、委員会活動を通して、自主的に取り組む姿勢を育むように助言していきたい。
		各種委員会の生徒を中心に、委員会活動を行う。 ③⑦	B		
	豊かな充実した学校生活を送る環境整備を図る。	生徒が部活動に積極的に参加できる環境をつくる。 ⑭	B		
		奉仕活動や災害ボランティアに対する意識向上を通して、社会性を育む。 ③⑦	B		
	キャリアパスポートの活用について	自らの学習状況やキャリア形成を見通したり、振り返ったりして、自己評価を行うとともに、自己実現につなぐものとしてキャリアパスポートの活用を通して、自己肯定感を涵養させる。 ③⑦	B		

第1学年	生活指導を確立させる。	保護者と連絡を密にして、無断遅刻・欠席を未然に防ぐことに努める。 ⑥⑩	B	B	・休み時間や行事で移動が遅い生徒がしばしば見られる。HRや授業の時間に間に合うよう行動することも含めて、継続的に声かけをする必要がある。また行事の出席率を向上させるためにはたらかせも考えなければならない。
		日頃より生徒の観察に努め、服装・頭髮の変化等に気を配り、生活面の乱れを未然に防ぐ。 ⑥⑦	B		
	基礎学力の向上を図る。	提出物等の期限を守ることが徹底させ、不測の事態が起きた場合の連絡などを自分自身でできるよう指導する。 ①	B		
		各教科担当者と常に連携して共通理解を図り、学期ごとに成績不振となる生徒の指導を行う。 ①	B		
第2学年	進路に向けて意識を持たせる。	進路を考える資料を提供し、面談を通して実現に向けた目標や計画を立てる支援をする。 ⑦	B	B	・定時制の軸となる学年に進級することの自覚と学校行事への主体的な参加を促したい。 ・進路を意識した学習活動の定着や欠席の減少化を図りたい。
	基本的生活習慣の確立。	落ち着いた学校生活の構築に努め、欠席・遅刻等を極力なくすようにする。 ⑧⑨⑩	B		
		保護者と連絡を密にし、社会・家庭・学校における唯一無二の存在であることを自覚させる。 ①⑥	B		
	学校行事への主体的な参加。	学校の中核を担う学年になる意識の育成と自己肯定感、達成感を高める。 ⑦⑭	B		
		委員会やホームルームにおける役割を明確にし、積極的に学校行事等に取り組ませる。 ⑥⑦	B		
第3学年	進路実現に向けた準備をさせる。	2年生としてやるべきこと、必要なことを自覚し、進路に関する意識を高める。 ⑥⑩	B	B	・次年度の進路実現に向けて自己分析をしっかりとさせ、面接試験に対応できるようにする。またLHRなどでSPI問題に取り組ませ、一般教養を高めておく。
		進路決定に必要な自己分析・自己理解に努める。 ⑥	B		
	生活習慣の確立と学習意欲の向上を図る。	保護者との連携を図り、社会や地域の一員としてのマナーを身につける。 ①⑥⑪	B		
		学校の中核を担う学年になる意識の育成と自己肯定感、達成感を高める。 ⑦⑭	B		
第4学年	自己実現のために、進路意識の涵養を図る。	近い将来社会人になることを念頭に、自分ごととして意識し向上心を醸成する。 ⑥⑦	B	B	・最上級生に相応しい行動が取れる様に指導し、基本的なマナーを身につけさせたい。 ・生徒の進路への準備の進行状況などを確認し、滞りなく次のステップを踏めるように主体的な行動を促したい。
		進路について学習する場を設け、自己実現に向けた目標や計画を立てる準備をする。 ⑥⑦	B		
	社会人として必要な学力・マナーと定着と意識の向上を図る。	社会人として必要な学力・マナーや基礎的な学力、基本的生活習慣などを身に付けるとともに、実践できるように指導に努める。 ②⑩	B		
開かれた学校	学校行事への参加意識を高揚させる。	校内行事や様々なことを経験し、自己肯定感を高めながら、最高学年として他学年の模範となる意識の育成を行う。 ⑥⑩	B	A	・同窓会やPTAにも広報をしていきたい。
	明確な進路希望の先にある進路実現を図る。	卒業学年としての自覚に基づき、進路希望を明確にするとともに自分の個性や適性を理解し、主体的な進路選択に努める。 ⑥⑦	B		
	地域や保護者に情報を発信する。	学校ホームページやスクールガイド、学級通信などを通して活動状況を密に発信する。 ⑮	A		
働き方改革	広報活動を推進する。	学校説明会や学校公開・中学校訪問等を通して、広報活動に努める。Web上での学校説明の内容を充実させる。 ⑮	A	A	・職場環境アンケートで出された課題の解消が未だ十分ではない。
	学校関係者との連携を密にする。	定通振興会・同窓会・学校評議員・PTAとの連携を密にし、意見聴取等により教育内容の改善・充実につなげる。 ⑮⑯	B		
	業務の見直しと業務時間の平準化に心掛ける。	各校務分掌内で、業務や行事の見直しを行い、構成員間の業務時間の平準化を図る工夫をする。 ⑰	A		
	情報共有の効率化に努める。	校内サーバーや教育情報ネットワークを利用し、業務の共通理解や効率化を図る。 ⑱	A		
	職員の意識高揚と実践の具体化を図る。	衛生委員会で働き方についての工夫や改善方法について提案し、実践につなげる。 ⑲	B		

※評価基準：A:十分達成できている B:達成できている C:概ね達成できている D:不十分である E:できていない